

AXIES2025 RDM部会企画セッション

研究データマネジメントの 地域間連携：趣旨説明

松原 茂樹

(AXIES RDM部会主査 / 名古屋大学情報基盤センター)



AXIES-RDM 部会



体制

ポリシー

DMP

データ人材

即時OA

コア
ファシリティ

データ基盤

研究データマネジメント部会への参加方法 <https://rdm.axies.jp/sig/24/>

AXIES正会員、賛助会員にご所属の方のうち、研究データマネジメント部会
に参加をご希望の方は、以下の情報を事務局（office@axies.jp）宛にお寄せください。

部会名：研究データマネジメント部会

参加希望者の氏名：

所属：

メールアドレス：

本日, 17:15-18:15 部会ミーティング@2階 **F**会場 (206)

AXIES 年次大会（RDM部会企画セッション）



2016	全学研究データマネジメント環境の構築に向けて
2017	日本のRDM – 方針策定と情報基盤開発に向けて
2018	RDM環境構築のためのポリシーメイキング
2019	RDMの組織的行動への展開
2020	大学におけるRDM支援体制の構築
2021	大学での組織的RDMフレームワークー実践と洗練
2022	大学における研究データガバナンスを考える
2023	RDM推進の学内体制を考える
2024	RDMは研究活動をどう促進するか

学術機関における
研究データ管理に
関する提言

AXIES 大学ICT推進協議会
2019年5月1日

大学における
研究データポリシー
策定のための
ガイドライン

AXIES 大学ICT推進協議会
2021年7月1日

研究データマネジメントの事例形成に向けて

・大学の研究データマネジメントの取り組み事例を蓄積

雑誌「情報の科学と技術」

(情報科学技術協会の月刊誌に毎月掲載)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jkg/-char/ja>



RDMに関する講演



講演内容を元に毎号寄稿



2024.10～2025.9 の連載（全13編）を
事例報告集として発行

AXIES2025 の RDM



1.

1AM2T

タップで ON/OFF

♡ お気に入り

研究データマネジメントの地域間連携

提案団体名	研究データマネジメント部会
日時	2025/12/01 11:10~12:40
会場	特別会議場

2.

RDM部会ミーティング

12/1 17:15-18:15 @2階 F会場 (206)

3.

3PM1B

タップで ON/OFF

♡ お気に入り

研究データマネジメント

座長	甲斐尚人 (大阪大学)
日時	2025/12/03 14:00~15:15
会場	B会場

研究データエコシステム構築事業

<https://www.nii.ac.jp/creded/project.html>



研究データ基盤高度化チーム NII リーダ機関

NII Research Data Cloudを
7つの側面から機能拡張

研究データ基盤の機能実装

活用

コード付帯機能

データ・プログラム・解析環境の
パッケージ化と流通機能を提供し、
研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼

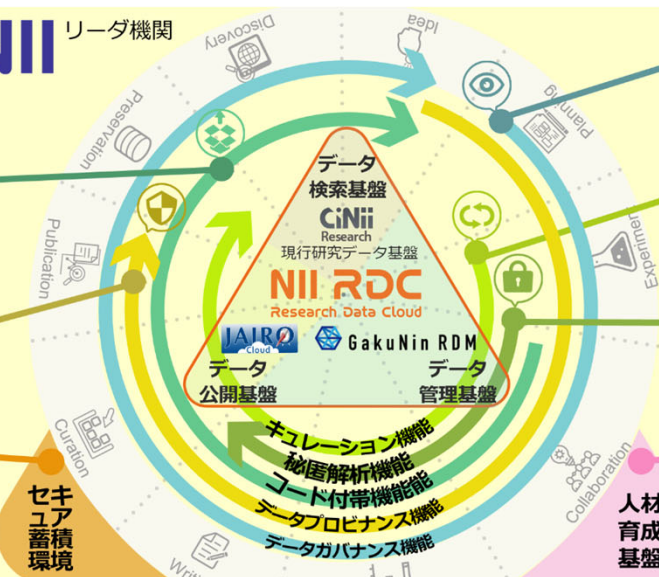
データプロビانس機能

データの来歴情報の管理から利用
状況を把握でき、データ公開への
インセンティブモデルを提供

蓄積

セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機
能を有する超鉄壁ストレージを提供し、
機微な情報も安心して保全



データガバナンス機能 管理

計画に基づきデータ管理等を機械
的に支援し、DMPをプロジェクト
管理に不可欠な仕組みへと変革

キュレーション機能 流通

専門的なキュレーションを実践
できるエコシステムを構築し、
データ再利用の促進に寄与

秘匿解析機能 保護

秘密計算技術で機微な情報も安心し
て解析できる環境の提供で、新しい
データ駆動型研究の世界を開拓

人材育成基盤 育成

RDMに必要なスキルを学ぶ環境
を提供し、全ての研究者を新しい
科学の実践者へと育成

プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

リーダー機関

- ・ 機関内サービス等とNII RDC
の連携機能の整理と設計
- ・ 計測機器等からの大量データ
を効果的に管理するための要件
整理と機能開発
- ・ 管理対象となるメタデータの
設計と実証
- ・ 関連する高度化機能との仕様
調整と共同開発



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

リーダー機関

- ・ 異なる分野間でのデータ活用
やデータ連携に発展する取り
組みを精査
- ・ 異なる分野間でのデータ活用
やデータ連携に関する具体的
なユースケースを創出
- ・ ユースケースをまとめたツール
キットの作成とそれを用いた
広報活動



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

リーダー機関

- ・ 研究データの活用に適した機
械可読データの統一的な記述
ルール設計
- ・ 研究データの公開に必要な要
項や作業フローの整備
- ・ 研究データを適切に取扱うた
めの指針のまとめ
- ・ 学内整備のための事例形成



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

リーダー機関

- ・ 人材育成を主とした研究デー
タ管理体制の構築を推し進め
る学内組織構築の事例形成
- ・ 研究データ管理人材に求めら
れる標準スキルに関する検討
- ・ 研究データ管理人材育成のた
めのカリキュラムの作成、オ
ンライン学習コースの整備

基盤の活用に係る環境整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

研究データ管理スタートアップ支援事業

<https://www.nii.ac.jp/creded/start-up.html>



中核機関群：司令塔機能を果たし、各拠点大学と連携し相談等に対応する

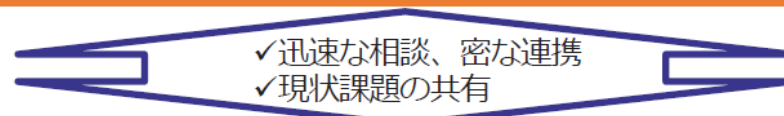
NII

理化学研究所

東京大学

名古屋大学

大阪大学



各地域におけるコミュニティ：核となる拠点大学が支援機関としてリード

- 全国に、拠点大学を作って中核機関群が支援し、各拠点大学が地域の多様な大学・研究機関を支援

- 潜在需要が想定される大学も含め、コミュニティを広げていく

2024年度開始予定：

- ・中国四国地区（広島大学）
- ・九州地区（九州大学）

2025年度開始予定：

- ・北海道地区（北海道大学）
- ・東北地区（東北大学）

2023年度開始済：

- ・東海地区（名古屋大学）
- ・北陸地区（金沢大学）

2023年度活動（抜粋）

- ・コンソーシアム設立
- ・セミナー開催
- ・支援チームの派遣
 - * データポリシー策定
 - * セミナー講師派遣
 - * 学内アンケートの実施・分析

波及

波及

波及



大学の研究データ管理は地域連携で促進されるか？

- “ChatGPT 5.1” <https://chatgpt.com/> の回答・・・
 - **はい。**むしろ、現在の日本の状況（専門人材不足・予算制約・国の方針の強化）を踏まえると、**地域連携はもっとも現実的かつ効果的な推進方式**です。
 1. **専門人材不足を補える** 多くの大学では、RDM担当（図書館、URA、情報部門）が少人数です。地域連携により、単独では届かない専門性を確保できます。
 2. **データ基盤を共同で整備できる** 個々の大学には予算・技術的ハードルがあります。地域で共同化すれば、コスト削減と標準化が両立します。
 3. **地域の研究力を引き上げるインセンティブが働く** 大学が連携することで、RDMが「コスト」ではなく地域の価値創造インフラとして位置づきます。
 4. **国の政策（2025年度からの加速）に対応しやすい** 共通のガイドライン作成、研修の効率化が可能となり、個々の大学の制度整備を強く後押しします。
 5. **研究者支援の質を均質化できる** 地域連携でFAQや手順書を共有できれば、地域全体のRDMリテラシーが底上げされます。

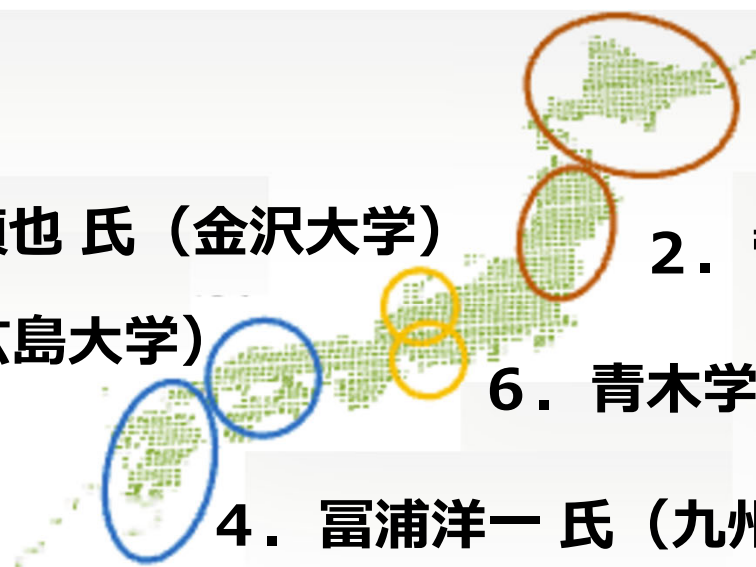
「地域連携」は、**大学のRDMを促進する強力なドライバー**です。**人材・予算・標準化の課題**を一挙に解決し、国の方針にも対応でき、地域の研究力強化にもつながります。

本日の企画セッション



(司会) 高田良宏 (金沢大学)

研究データ管理スタートアップ支援事業



1. 棟朝雅晴 氏 (北海道大学)

2. 菅沼拓夫 氏 (東北大学)

6. 青木学聡 氏 (名古屋大学)

4. 富浦洋一 氏 (九州大学)

5. 笠原禎也 氏 (金沢大学)

3. 西村浩二 氏 (広島大学)

パネルディスカッション：
(モデレータ) 甲斐尚人 (大阪大学)